

佐世保自衛隊後援会だより

(発行)
佐世保自衛隊後援会
会長 金子 卓也
佐世保市湊町6番10号
(佐世保商工会議所内)
TEL (0956) 22-6121



9/16 陸上自衛隊 水陸機動団 後期教育修了式



7/26 陸上自衛隊オスプレイ 水陸機動団との共同訓練



9/23 海上自衛隊 練習艦隊歓迎行事



9/1 海上自衛隊佐世保造修補給所 物品・糧食展示会

■陸上自衛隊オスプレイ 水陸機動団と共同訓練
7月26日(火)、陸上自衛隊木更津駐屯地に暫定配備中の輸送機「オスプレイ」2機が長崎県内で初めて飛行し、水陸機動団と連携した訓練が行われた。輸送航空隊と水陸機動団から約70人が参加。島嶼地域の戦場で負傷した隊員を救助する想定で連携を確認した。

■海上自衛隊佐世保教育隊 修業式

8月26日(金)、海上自衛隊佐世保教育隊で一般海曹候補生と練習員課程の修業式があり、477人が国防に携わる決意を新たに示した。4月に入隊し、これまで艦艇や航空などの実習、海面での訓練や持久走競技といった自衛官に必要な教育を受けてきた。修業者のうち67%が佐世保地区に配備される。

■海上自衛隊佐世保造修補給所 物品・糧食展示会

9月1日(土)2日にかけて、3年ぶりとなる物品・糧食展示会が開催された。本展示会は海上自衛隊の部隊ニーズの把握と民間企業のニーズの発掘を主な目的としており、21社(うち佐世保市内17社)が出展した。西総監をはじめとする自衛官231名が来場した。

■水陸機動団 後期教育修了式

9月16日(金)、水陸機動団の新隊員の修了式があり、108人が式に臨んだ。隊員たちは7月から戦闘や射撃、水泳といった厳しい訓練に取り組んできた。今後は第1又は第2水陸機動連隊に配属される。

■海上自衛隊 護衛艦「すずき」出国行事

9月17日(土)、倉島岸壁にて護衛艦「すずき」の出国行事が行われ、家族らが隊員を見送った。ソマリア沖アデン湾にて、海賊対処と、日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集を兼務する。乗員は約220名、活動は10月後半から約4ヶ月間。

■海上自衛隊 練習艦隊歓迎行事

9月23日(金)、海上自衛隊の練習艦隊(司令官小牟田秀寛海将補)が倉島岸壁に入港し、歓迎行事が行われた。入港したのは、練習艦「かしま」「しまかぜ」。将来を担う実習幹部68名は、佐世保地方総監部の歴史や役割などを学び、26日(月)に出港した。

2022年7・8月 異動のお知らせ

■海上自衛隊

転出者(異動先)

- ・第22航空群司令 海将補 國見 泰寛 (統合幕僚監部 報道官(市ヶ谷)へ)
- ・佐世保地方総監部管理部長 1佐 北林 治 (第212教育航空隊司令(鹿屋)へ)
- ・佐世保造修補給所長 1佐 穂垣 元孝 (防衛装備庁調達事業部 艦船調達官)へ)

転入者(前職)

- ・第22航空群司令 海将補 鈴木 克哉 (海上幕僚監部人事教育部 人事計画課長)
- ・佐世保地方総監部管理部長 1佐 清水 博史 (佐世保地方総監部幕僚長補佐)
- ・佐世保造修補給所長 1佐 岸本 昌之 (長崎防衛支局長)

■陸上自衛隊

転出者(異動先)

- ・水陸機動団本部 高級幕僚 1佐 井川 三典 (西部方面総監部 広報室長(健康)へ)
- 転入者(前職)
- ・水陸機動団本部 高級幕僚 1佐 溝口 光章 (第50普通科連隊 連隊長)



右が第22航空群司令 鈴木海将補



左から2番目が水陸機動団本部 高級幕僚 溝口1佐

8月29日
防衛概要

「陸上自衛隊の概要と 水陸機動団の取り組みについて」

陸上自衛隊水陸機動団長 陸将補 梨木信吾



■「自己紹介」

最初に私の自己紹介ですが、昭和48年生まれ、現在48歳であります。和歌山県の九度山町という高野山の麓、真言宗の町の生まれでございます。昔、徳川家康から真田幸村（信繁）父子がちつ居を命ぜられた地が高野山で、その高野山の中の莊園の地がこの九度山という地です。1614年、真田幸村が豊臣秀頼公のためにということ、この九度山の地から大阪城に馳せ参じたというところだけが自慢の町でございます。

平成4年に防衛大学校に入り、今年でちょうど30年。最初に北海道の部隊、習志野の空挺団、そして群馬県の相馬原という地に勤務させていただいた後に、こちらの西部方面普通科連隊の2中隊長として勤務をさせていただきました。

た。事後、統幕、陸幕等の勤務を経て、昨年の12月に現職に就きました。

■「我が国の安全保障環境」

やはり注目すべきは、今年の2月24日に、ロシアがウクライナに対して行った軍事侵略であります。主権国家が他の主権国家に軍事的に進行するということ、21世紀では本当に考えにくかった事態が生起し、しかも、国連の常任安全保障理事国であるロシアから、国連加盟国のウクライナへの侵略を行うという、まさに、現在の国際秩序の根幹を揺るがす事象が生起をして、半年が経ちました。そして、この事態の中にも、中国それからロシアの艦艇や航空機の活動が、この極東地域においても非常に活発化しているという現状でございます。

大事なことは、ロシアのウクライナ侵略を、ロシアとそれを支援する国々の成功体験として終わらせないということだと思います。これは、防衛省・自衛隊のみならず、国際社会の諸力を結集して、その方向に持っていかねばならない

だろうと思っております。

また、戦争の実態を見ますと、軍事と軍事の戦いのみならず、外交、経済、文化情報、色々な面で、このハイブリッドな戦争要素を、しっかりと我々は押さえるべきではないと思っております。また、グレーゾーンの事態と言われる、いわゆる平時とも軍時ともつかない、この大切な時間をどのように対応していくのかということも、大きな教訓を秘めているわけでございます。

中国については、国家目標、軍事戦略が、国家主権と領土保全ということとです。特に領土保全については、台湾、そして尖閣諸島を核心的利益ということと定めて、次なる人民政権の三期目もこれを核としながら、進めていくのではなからうかと思っております。また、人民解放軍の強化を目指す強軍思想、2035年までに軍の近代化をなし得ようとする取り組み、また、今世紀半ばまでに世界一流の軍隊ということも謳っているところであります。

■「中国の動向」

私は個人的にはこの習政権三期目の後半部2027年あたり、2035年付近、そして2050年付近を三つの大きな山として、しっかりと平和と安定のうちに乗り越えるということが極めて大切なチヨークポイントでなからうかと考えています。中でも、次の習政権の三期目の後半部分である、2027年をしっかりと乗り切るといったことが、防衛省、自衛隊としても、戦略3文書の一つの目指すべき目標として、しっかりと押さえるべきではないと思っております。

また、いわゆるハイブリッド戦、宇宙、サイバー、電磁波と呼ばれるような新たな領域をまたぐような力、そして、情報化戦争、智能化戦争、こういったものに、我々も同じくメスを入れていかなければならないと思っております。

次に中国の活動状況ですが、ご承知の通り、第一列島線、第二列島線をも越えた形で、またロシアとも連携しながら、様々な活動を活発化させているというのが現状であります。また、艦船のみならず、航空機の内領空侵犯というような形でも、昨年防衛省が公表したスクランブルの回数は1004回、そのうち70パーセントが中国の航空機です。

また、宮古島、与那国島の南の付近でこの5月に、空母遼寧からの発着艦訓練が300回以上されたという、過去に例のない対応

をしているというようなこともございます。非常に、この中国の行動というのは、注目すべき段階にきているんだらうなという風に思っています。

■「中国の歴史・本質文化を知る」

一方、中国というものの本質もしっかりと勉強していかなくやいけないんだらうな、というように思っています。

私の尊敬する空海さんも、遣唐使として当時留学したわけですが。この前、NHKのBSで、唐の都長安ということについてやってみましたけれども、やはり中国というもの、の歴史、ものの考え方、本質、文化、伝統も含めて、しっかりと相手を知った上で、我々、東アジアの平和と独立というもの、緊張関係の中で保っていくという側面も非常に大事だなと思っております。最近ではうちの若い隊員にも、孫子を読めよ、それに基づいてあの三国志っていうのは書かれてるんだぞ、と話をしています。なぜあれだけの群雄割拠する時代にこういう英雄が生まれてきたのか、それは孫子の戦い方、そういうものが根底に流れて、三国ということに至るわけですが、この中国の戦い方、思想というの、最終的にはこの孫子に依つてくるかな、大きなものではないかな、なんて私は思っています。そして、現在の中国共産党とい

うもの思想発想も、この伝統文化からきているものがありますから、しっかりと、中国自体の地政学的・地理的な勉強もしていかなきゃいけないだろうなということ、私の目下のテレビ番組の焦点は、中国関係の色々な自然だった、揚子江、黄河がどうなっているのかとかですね、万里の長城がなぜ築かれたのかとか、そういったところに注目して勉強しているところがあります。

最近、若い子には、貞観政要を読めって言っています。貞観政要っていうのは、中国の唐の二代皇帝・李世民という人が残した言葉を呉兢という人がまとめた古典なんですけども、そういうところから我々盗み取るべきことはないかどうか、そういうのを見定めながら、教育をしています。

■「北朝鮮の動向」

北朝鮮は金体制の維持、これを死活的、国益として、今年に入ってから既に大陸間弾道ミサイルを発射するなど、繰り返し行っています。今少しだけ注目しなきゃいけないのは核実験の状況ですね。最近の米国の研究機関、そして衛星写真から、核実験を繰り返してきたプンゲリというところの核実験の施設、ここは一旦アメリカとの交渉で壊したんですね。使えないようにした。しかし、今は見えない所でまた作り直されて、

次いつこのプンゲリで核実験が行われるのかというところが注目のところだと思えます。これまたどういう政治状況で、このカード一枚を、中国とロシア、そしてその他の国際情勢の中で切ってくるのかというのが、非常に見どころであります。

■「ロシアの動向」

強いロシアを掲げて、大国としての復権、これを目指そうとしているというのは間違いないと思えますし、その理由はNATOの活動の活発化、加盟国の拡大、そういったところを刺激されているところがあるかと思えます。我が国の防衛政策にもすごく影響を及ぼしているのが、核抑止理論、極東正面を見ますと、宗谷海峡、津軽海峡ともにですね、通過は増加傾向にあるという状況です。特にこの3月には、ウクライナへの増援部隊を輸送しているとみられる艦艇が北方四島を含むクリルアイランドからウラジオに向けて通峡しているという状況も確認されています。そしてまた、明後日からポストーク2022という極東正面で毎年行われる大規模な訓練がありますけども、ウクライナで戦争している間も、この極東の軍の部隊の足腰を鍛えるという演習を明後日からやるということ、ロシアっていうのは、本当に奥が深い国だなと思えます。

■「陸上自衛隊の活動」

さてそうした中で、陸上自衛隊全体としてどんな取り組みをしているのか。陸上自衛隊は、現在9個師団、6個旅団体制で、全国くまなく158ヶ所に駐分屯地を設けています。ですから、即応態勢というのは国土防衛戦ということに関しては盤石なものです。我々の防衛の目標は、我が国にとって望ましい安全保障環境の創出をして、脅威が及ぶことを抑止して、そして事態への対処をする。この防衛の目標の二つは、基本的には「戦わずして勝つ」ということです。私も水陸機動団の隊員を死なせたことはありませんので、平和なうちに、この時を迎えるということが非常に大切です。しかし、一番最後には「戦ったとしても勝つ」、そういう部隊を目指さないといけないと思っています。そのため、我が国の防衛体制を強化する、そして日米同盟を基軸としながら、様々な国との連携を図りながら、安全保障協力を推進していく。

その取り組みとして、多次元統合防衛力の構築、中でも陸上自衛隊で一番注目していただきたいのが、この南西地域の部隊配置の推進というところであります。2016年に与那国の沿岸監視隊が新編されました。それ以降ですね、奄美警備隊、宮古警備隊、そして水陸機動団の新編、また来年、石垣島の警備部隊、地对艦ミサイ

ル部隊、こうした部隊が新編することとなります。再来年には、水陸機動団がもう一枚脱皮して大きくなる。新改編事業が2024年に待ち構えているということ、これから戦略3文書で陸上自衛隊として、九州から以南のこの地域の部隊の増強改編というのをどのように持っていくのか、ということが、今現在市ヶ谷の省内で検討されているところでもあります。

■「水陸機動団の取り組み」

我々の任務ですが、基本的には、我が国防衛の中で、奪回作戦を行う能力を持っています。どのように奪回をするのかというと、洋上から泳ぐ、ボート、水陸両用車、こういったのがあります。それから空から、大型ヘリコプター（チヌーク）、オスプレイ、これをもつて迅速に、そして長距離に機動をして展開をし、島での戦いを行う。「水陸両用作戦ってなぜ陸上自衛隊なんですか、海上自衛隊じゃないんですか？」ってよく言われるんですけど、我々はあくまで国土防衛作戦、専守防衛という政策のもとに、我が国国土をしっかりと確保し奪回するということで陸上自衛隊に所属しています。

私以下、今2400名の体制で編成をとっておりますけども、1年半後には、南西防衛体制強化の一環として、水陸機動団の新改編事業を行います。水陸機動連隊の

三つ目を竹松駐屯地に置かしていただくという予定で進めています。そして、その三つ目を支援するための機能の部隊をまた相浦に増やすということで、3000名を超え我々の担うべき使命と重責というものを感ずるところであります。

そして最後に、地域の皆さんとの連携ということですけれども、この前は商工会議所の皆様、うちの駐屯地に研修に来ていただきました。ありがとうございます。また1日の日は佐世保市の防災訓練、それから9月中旬はシーサイドフェスティバルにも我々積極的に参加させていただきました。地域の皆さん、私の部下の家族の皆さんと一体となった防衛力、国民の皆様から支援を受けて成り立つ防衛力をしっかりと築いて、戦わずして勝つ、そして戦っても勝つ。そういう相浦駐屯地、水陸機動団にしたいという思いで、お話をさせていただきました。



2022(令和4)年版防衛白書(抜粋)

第Ⅱ部 第4章第2節 防衛関係費

1 防衛関係費の概要

防衛関係費には、防衛力整備や自衛隊の維持運営のための経費のほか、基地周辺対策などに必要な経費が含まれている。

わが国周辺の安全保障環境がこれまでにない速度で厳しさを増す中、各種事業の実施を加速し、必要な防衛力を大幅に強化するため、令和4(2022)年度当初予算は、「防衛力強化加速パッケージ」として、令和3(2021)年度補正予算と一体して編成した。

また、研究開発費は、次期戦闘機などの開発に加え、ゲーム・チェン

ジャーとなり得る最先端技術への投資を大幅に増やすこととし、過去最大となる、796億円(37.6%)増の2,911億円を計上した。

なお、令和4(2022)年度当初予算¹⁾は、前年度と比べて553億円(1.1%)増の5兆1,788億円、米軍再編など²⁾を含めると5兆4,005億円であり、10年連続の増加を維持しており、過去最大である³⁾。

□ 参照 図表Ⅱ-4-2-1(防衛関係費の令和3(2021)年度と令和4(2022)年度の比較 図表Ⅱ-4-2-2(防衛関係費(当初予算)の推移)

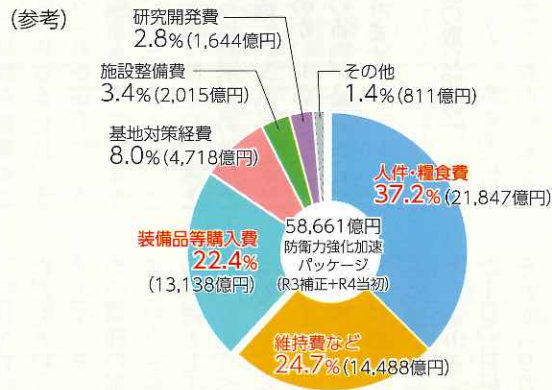
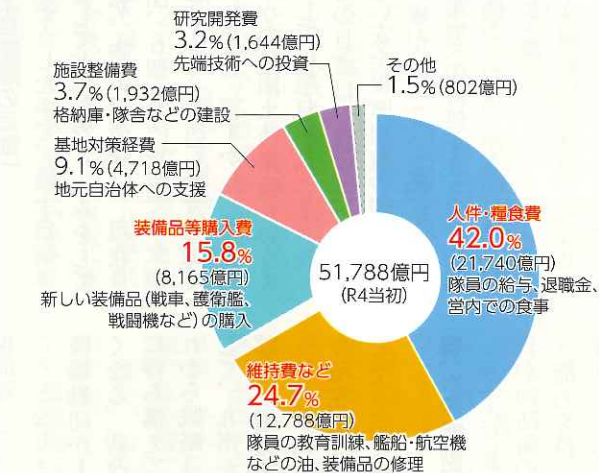
図表Ⅱ-4-2-1 防衛関係費(当初予算)の令和3(2021)年度と令和4(2022)年度の比較

区分	令和3(2021)年度		令和4(2022)年度	
	金額(億円)	対前年度増▲減	金額(億円)	対前年度増▲減
歳出額(注)	51,235		51,788	553 ▲1.1%
うち人件・糧食費	21,919		21,740	▲179 ▲0.8%
うち物件費	29,316		30,048	732 2.5%
後年度負担額(注)	52,784		53,342	558 1.1%
うち新規分	24,090		24,583	493 2.0%
うち既定分	28,694		28,759	65 0.2%

(注1) 上記の計数は、SACO関係経費と米軍再編関係費のうち地元負担軽減分等を含まない。これらを含めた防衛関係費の総額は、歳出額については、令和3(2021)年度は53,422億円、令和4(2022)年度は54,005億円となり、後年度負担額については、令和3(2021)年度は55,330億円、令和4(2022)年度は58,642億円となる。

(注2) 予算額には、デジタル庁に係る経費を含む。
(注3) 計数は四捨五入のため合計と符合しないことがある。

図表Ⅱ-4-2-4 防衛関係費の用途別分類(令和4(2022)年度)

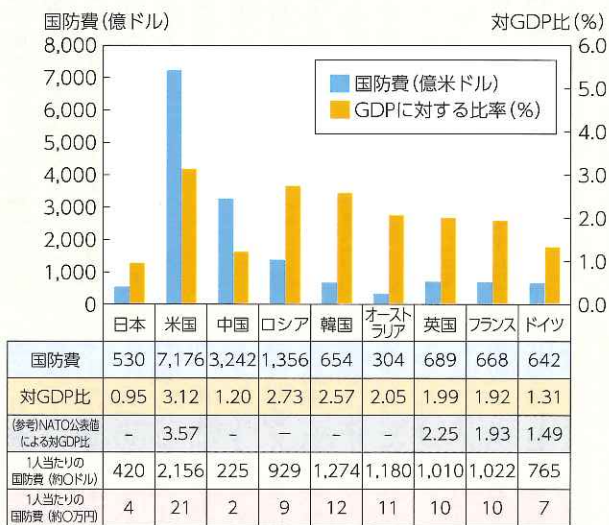


※米軍再編関係経費などを除く。

図表Ⅱ-4-2-2 防衛関係費(当初予算)の推移



図表Ⅱ-4-2-5 主要国の国防費(2021年度)



(注) 1 国防費については、各国発表の国防費を基に、2021年購買力平価(OECD発表値:2022年4月現在)を用いてドル換算。
[1ドル=96.759441円=4.18円=26.37ルーブル=808.46233ウォン=1.464075豪ドル=0.667865ポンド=0.713551ムソウロ=0.731457独ユーロ]
2 中国が国防費として公表している額は、実際に軍事目的に支出している額の一部に過ぎないとみられ、米国防省の分析によれば、2021年の実際の国防支出は公表国防予算よりも1.1~2倍多いとされる。
3 対GDP比については、各国発表の国防費(現地通貨)を基に、IMF発表のGDP値(現地通貨)を用いて試算。
4 NATO公表国防費(退役軍人への年金などが含まれる。)は各国発表の国防費と異なることがあるため、NATO公表値(2022年3月発表)による対GDP比は、各国発表の国防費を基に試算したGDP比とは必ずしも一致しない。
5 1人当たりの国防費については、UNFPA(State of World Population 2021)発表の人口を用いて試算。
6 SIPRIファクトシート(2022年4月公表)によると、2021年の世界のGDPに占める世界の国防費の割合は、2.2%となっており、日本のGDPに占める防衛関係費の割合は、1.1%となっている。なお、世界銀行によると、2020年のOECD加盟国のGDPに占めるその国防費の割合は、2.5%となっている。

佐世保自衛隊後援会

水陸機動団

海上自衛隊佐世保地方総監部



ホームページ



ホームページ



Twitter



ホームページ



Instagram



Twitter